

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493300014	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 水車の里		
事業所名	グループホーム 水車の里		
所在地	(〒226-0017) 神奈川県横浜市緑区新治町1101-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新治市民の森に隣接した緑多い、大変環境に恵まれたグループホームです。入居者の方一人ひとりが自分らしく生活できることを大切にしています。ホーム内でアイスクリーム屋を営む方やコロナ禍以前はこども食堂でボランティア活動をしている方もおられました。自分らしく生き生きと生活できることを大切にしています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月19日	評価機関 評価決定日	令和5年2月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR横浜線「十日市場」駅から若葉台中央行きバスに乗り「萱場公園入口」で下車、静観な住宅街を通り徒歩4分のところにある木造2階建てのグループホームです。新治市民の森に隣接し、前には事業所所有の畑が広がっています。

<優れている点>

4年前に職員と話し合って新しくした理念を大切にしています。以前青果店を営んでいた入居者の「店をやりたい」の希望で事業所内にアイスクリーム屋を開いたり、子供好きの入居者が子供食堂のボランティアに参加したいとの要望を叶えるなど、理念の「自分らしく」「よりよく生きることを実践しています。防犯パトロール、地域清掃、夏祭りや餅つきなどの、自治会の活動に参加したり、地域の写真愛好家グループの発表の場として事業所の廊下を提供するなど地域に密着しています。管理者は事業所の支援の事例を積極的に外部に発信して他事業所から見学者の受け入れもしています。職員は外部発表された資料を見たり、見学者受け入れの様子を見て、日頃の支援に誇りや、やりがいを感じています。

<工夫点>

毎月入居者がやりたいことを担当職員と相談・企画し確実に実行する「ミニケアプラン」があり、入居者がコンサート、食事、ドライブなど、やりたい事で楽しめるよう努めています。アイスクリーム屋では、会計担当、広報担当など他の入居者も役割分担し、活動を楽しんでいます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 水車の里
ユニット名	霧が丘第一

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はホームの状態に合わせながらスタッフとともに作成し現在に至っています。また日々のケアの指標となっています。	4年前に職員と話し合っって新しくした理念は玄関ロビーに掲示しています。子供好きの入居者が地域で開催される子供食堂のボランティアとして参加したいとの要望を、支援して実現するなど理念の「自分らしく」「よりよく生きることを大切にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として入居者さんは地域の防犯パトロールや町内一斉清掃などに参加しています。また入居前より参加していた自治会の会食会にも継続して参加しています。	近隣の2つの自治会に加入し、防犯パトロール、地域清掃、夏祭りや餅つきなどに参加しています。地域の写真愛好家グループが発表の場として事業所の廊下に展示するなど地域と交流しています。	近隣の小学校に雑巾を寄付するなど関係性はできていますので、今後はさらに交流を深めることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関する研修会の講師や地域の事業所向けにホームの活動報告などを積極的に行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍は書面開催となっていますが文書にてご意見をいただきながらサービスの向上に努めています。	以前は対面での開催でしたが、コロナ禍で書面開催としています。民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員が参加し年6回開催です。民生委員から「地域の写真愛好家グループが発表の場を探している」との話題が出て、事業所の廊下を提供しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	困難事例やコロナに関する対応など市町村と連携し意見交換を行っています。コロナに関しては保健所とともに研修会を開催しました。区の認知症啓発活動でも作品を提供しています。	緑区の担当部署とは認知症啓発活動や新型コロナウイルス感染症対応で緊密に連携しています。生活支援課担当から生活保護費受給者の入居の相談も受けています。横浜市のグループホーム連絡会役員や神奈川県グループホーム協議会会長を務めるなど行政と連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設として自施設のみならず、他の事業所に向けても研修を行っています。また定期的に不適切なケア等が行われていないか、検討を行っています。	帰宅願望がある入居者の外出に付き添いながら話を聞き、気持ちをリセットして安心して事業所に戻るなど身体拘束しない支援をしています。職員は年2回内部研修で身体拘束しない支援を確認します。事業所は神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設になっており他事業所の研修を実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様、定期的に研修会を開催しています。	職員は年2回の内部研修「高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について」で意識を高めています。身体拘束・虐待廃止委員会は年4回開催しています。管理者は不適切な支援と判断したときは、その場で職員が自省するように指導しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修などを活用し学びの機会をつくっています。また必要時には実際に後見人制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については分かりやすい説明を心掛けています。入居後も気軽に質問していただけるような環境づくりを行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や交換連絡ノートなどを活用しています。また日頃から気軽に要望を伝えられるような信頼関係づくりを心掛けています。	家族の意見は、訪問時に記入する交換連絡ノートやメールで把握します。毎月事業所の様子を伝える「水車の里便り」と利用者自身も書くことがある「個別の便り」を同封し家族に送付します。家族から「お手伝いします」の返事をもらうこともあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議にて職員から要望を聞く機会を設けています。職員の提案にて業務改善や修繕などが行われています。	職員の意見は全体会議、業務改善委員会、申し送りノートで把握します。コロナ禍前には職員の提案で熱海などへの日帰り旅行を楽しんでいました。年に一度は個人面談を行い、勤務や業務分担、仕事に対する思いなどの話し合いをしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者からの報告をもとに、検討を行っています。	管理者は事業所の支援の事例を積極的に外部に発信しており、他事業所からの見学者を受け入れています。職員は外部発表された資料を見たり、見学者受け入れの様子を見て、日頃の支援に誇りややりがいを感じています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成についてはすべて管理者に一任されています。定期的な研修会の開催やOJT, 外部研修などにも参加する機会をつくっています。	管理者は一人ひとりの個性に合わせた育成計画を考えています。資格取得の外部研修が受講しやすいよう勤務体制に配慮しています。内部研修は正規社員とパート社員の区別なく受講しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の連絡会や県の協議会に加入し、他事業所との交流やネットワークづくりを行っています。また連絡会役員や協議会会長としてグループホーム全体の質の確保に努めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居直後はセンター方式を活用し情報の収集をおこなっています。また本人との対話の機会を多く持つことで信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安や要望を汲み取れるよう、積極的に声をかけ、コミュニケーションを図っています。また毎月のホーム便りや個別の便りなども活用し、入居者の方の様子が分かるよう工夫しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が望む生活を実現するために必要な情報を提供し、共に検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の方本人参加のカンファレンスを開催し、本人が主体的に生活できるよう、工夫しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのかかわりが途切れる事のないよう、対応しています。関係性も家族ごとに違うので、個別的な対応を心掛けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居以前に通っていた自治会の集まりなどには入居後も変わらず参加しています。また携帯電話をお持ちの方には適切に使用できるよう、対応しています。	近隣に住んでいた入居者が多く、自治会の集会や馴染みの美容院に継続して通っている人がいます。携帯電話で大学時代の教え子や友人と話す入居者もおり、充電や電話のかけ方の支援をします。家族と外出し、自宅に帰ったり旅行に行く人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット合同のイベントを開催したり、気の合う人との外出を企画したりと、工夫し対応を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後の相談などにも柔軟に対応しています。また退居後もSNSなどでの交流を継続し、遊びに来て下さる家族もいました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別の希望を叶えるホーム独自のミニケアプランを活用しています。毎月担当職員とご本人がしたいことを企画し確実に実行できるよう工夫しています。	入居者の思いは入居時のアセスメントや日頃の生活ぶり、家族の情報で把握します。新たな気づきは気づきシートに記入し職員で共有します。毎月一人ひとりの希望を叶える「ミニケアプラン」で、レストランでの食事やコンサートに行くなどを実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からの会話で得た情報はホーム独自の「気づきシート」へ記入し、その人らしいケアに活かすよう、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の希望を尊重しつつ、自分らしく身体を動かせるよう努めています。またその日の情報はホーム独自の用紙に記入し出勤したスタッフが情報を共有できるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月に一度、スタッフ全員参加にてカンファレンスを開催し、ケアプラン作成につなげています。	介護計画は介護記録、業務日誌、情報提供書や本人の意見を確認して、3ヶ月に1度、本人・職員で検討しています。ホームを家として、本人の希望する畑仕事、晩酌を叶えている事例もあります。状態変化時は、本人・家族と相談して変更し、支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護記録はもちろんのこと、特に情報の共有を有する事についてはホーム独自の業務日誌に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状態に変化があった場合には情報提供書などを活用し、状態にあったケアが柔軟に実践できるよう、工夫しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会や商店なども地域資源と考え、認知症に関する啓発活動を積極的に行ってきました。現在は地域の一員としてさまざまな資源を活用しながら入居者の方は生活されています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医とは情報を共有しながら長きに渡り、連携しています。また家族への医療的な説明についてもホーム管理者、往診医、看護師などで集まり、丁寧な説明を心掛けています。	入居前の主治医を継続できますが、全員24時間対応のホーム提携医を選択しています。内科は月に2回、歯科は週1回往診しています。訪問看護は週1回利用者の健康管理を行い、職員と情報共有しています。専門医の受診はかかりつけ医を継続しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	必要な情報提供は交換連絡ノートを活用し行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム近隣の病院とは顔の見える関係性が築けています。ホームの考えとしては早期退院を基本とし、病院へも意向を伝えています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時にお渡しする指針の他、状態に合わせて主治医も含めた状態の説明や意向の確認を行っています。また話し合いの内容は情報提供書やケア方法指示書にてスタッフとも情報共有しています。	契約時に重度化や終末期の指針を説明しています。事業所の対応も理解して、看取りを希望する人が大半です。家族が泊り込んで最期を看取る事もあり、お別れ式（葬儀）も数件経験しています。職員は研修や振り返りで、寄り添う事を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に急変時の対応について確認を行っています。対応方法はマニュアル化され必要な物品なども決められた方法で保管されています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一度、消防署職員も参加し、避難訓練を行っています。緊急時に屋外へ避難した入居者の方の見守りなどは地域の方をお願いしています。	夜間想定を含めて年に2回、消防署職員も参加して避難訓練を行っています。屋外に避難した入居者の方の見守りや誘導を、地域住民に依頼しています。水や食料などの備蓄品は3日以上を保管して、在庫確認を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気になった職員の対応などは、その場で声をかけ、対応しています。お互いに声を掛け合える関係づくりに努めています。	入室時は、「ドアはノックしてから開ける。」「不在時は事前に了解を得る」を基本としています。排泄時はトイレの外で待ち、終了後に必要な支援を行う事が、人格の尊厳や本人へのプライバシーの確保に繋がると常に確認して支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で本人が自身の希望を話せる機会をもてるよう心がけています。またホームの都合を優先せず、本人の希望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床や入浴の時間、食事のタイミングなど、本人の希望を尊重したケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日頃より、本人らしくオシャレを楽しめるよう工夫しています。コロナ禍は外出ができなかった為、ホーム内にてオシャレをして撮影会を行い、ファッション誌を作成しました。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事では食器洗いや片付けなどを入居者の方が行っています。また入居者さんが郷土料理や思い出のメニューを調理するなど「食」を楽しめるよう工夫しています。コロナ禍はホーム内でステーキを焼いたり、焼肉をしたりと楽しんでもらいました。	一人ひとりの残存能力を大切に、包丁を持ち野菜を切ったり、盛り付けや配膳を手伝う人の見守りをしています。きりたんぼ鍋・団子汁の郷土料理なども作っています。おやつも利用者の希望を聞いて手作りしています。毎年暮れには、みんなでお煮しめ、なますを作り元旦に食べています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人が美味しくいただけることを大切にしながら工夫し対応を行っています。決められた献立にこだわらず、嗜好品などを活用しながら工夫し対応しています。また朝食はご飯かパンか本人が選択することができます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の状態や希望などを確認しながら対応を行っています。訪問歯科の先生から指導や助言を受け、対応しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	安易にオムツを使用することなく、本人の力を活用しケアを行っています。綿パンツの方も多く、ご本人の自尊心にも配慮しています。	本人の自立度と排泄チェック表により、最期までトイレで排泄することを目指しています。できるだけ終末期までオムツを使用せず、必要時には2人体制の支援を行い、リハビリパンツから綿パンツに改善した事例も多数あります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	安易に薬に頼らず、食事や散歩、体操などの運動を活用し対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、本人の希望に沿った入浴を心掛けています。自身でお湯を張り、毎日入浴している方もいらっしゃいます。	1週間で、中2日以上はあけない事を基本とし、週2~3回入浴をしています。自身で湯を張り、毎日入浴する人や、声掛けしながら、長湯を楽しんでいる人もいます。好みの香りや、ボディソープ・シャンプーを利用してリラックスしている人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	遅くまでリビングや居室でテレビや読書を楽しまれる方もいますが、夜間ゆっくり睡眠がとれるよう、日中はしっかり活動を行い、心地よい疲労が得られるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬に関しては一覧ファイルを作成し、いつでも確認することができるようになっています。新しい薬が処方されたときには情報提供書を作成し全スタッフが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アイスクリーム屋をホーム内にて行ったり、コロナ禍以前はこども食堂にてボランティアを行っている方もいました。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍、少しずつ感染状況をみながら外出の機会をつくっています。ご自身の買い物へ出かけたり、自治会の集まり、自宅への一時帰宅なども支援しています。	毎日午前、事業所の周囲の散歩に車いすの人も職員や家族と出かけています。日用品の買い物、月1回の自治会集会への参加、一時帰宅の人の支援も行っています。ドライブで、四季を感じたり希望する場所（ベイブリッジなど）へ行く支援を心がけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身で金銭管理されている方も多く、買い物に出かけた際は自身で支払いを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を利用されている方も数名おられ、充電などの支援を行っています。また手紙を出す習慣のある方には散歩の時間を活用して自ら投函しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の方の作品やイベントの写真などを貼付しています。また入居者の方と作った日めくりカレンダーなども活用しています。	毎朝食後に、掃除機、ほうき、ちり取り、モップと、各自が慣れた掃除用具で玄関から居間まで、掃除しています。トイレ、風呂場は職員が行っています。壁には職員紹介や入居者の懐かしい若かった頃の写真コーナーもあります。入居者の制作した日めくりカレンダーや季節の飾りも飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室やリビングのほか、ローカの一部スペースやエレベーターホールなどにもイスやベンチを設置し入居者の方が快適に過ごせるよう工夫しています。リビングに置かれたソファは休息や他入居者との交流の場となっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には思い出の写真を貼付したり、なじみの物を配置し、ご本人にとっての心地よい空間作りに努めています。また季節ごとの衣替えや整頓などもご本人と一緒にしています。	居室の入り口には表札を付け、自分の部屋が分かりやすくなる工夫をしています。自分で居室の掃除を行う人や、職員と一緒にいる人など、毎日、皆で掃除をしています。使い慣れた、イスや仏壇、冷蔵庫、家族の写真や小物、裁縫道具などを持ち込み、自分の使いやすい部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の方の持っている力を活かしながら生活できるよう工夫しています。		

事業所名	グループホーム 水車の里
ユニット名	霧が丘第二

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はホームの状態に合わせながらスタッフとともに作成し現在に至っています。また日々のケアの指標となっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として入居者さんは地域の防犯パトロールや町内一斉清掃などに参加しています。また入居前より参加していた自治会の会食会にも継続して参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症に関する研修会の講師や地域の事業所向けにホームの活動報告などを積極的にを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍は書面開催となっていますが文書にてご意見をいただきながらサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	困難事例やコロナに関する対応など市町村と連携し意見交換を行っています。コロナに関しては保健所とともに研修会を開催しました。区の認知症啓発活動でも作品を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設として自施設のみならず、他の事業所に向けても研修を行っています。また定期的に不適切なケア等が行われていないか、検討を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様、定期的に研修会を開催しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修などを活用し学びの機会をつくっています。また必要時には実際に後見人制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については分かりやすい説明を心掛けています。入居後も気軽に質問していただけるような環境づくりを行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や交換連絡ノートなどを活用しています。また日頃から気軽に要望を伝えられるような信頼関係づくりを心掛けています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議にて職員から要望を聞く機会を設けています。職員の提案にて業務改善や修繕などが行われています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者からの報告をもとに、検討を行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成についてはすべて管理者に一任されています。定期的な研修会の開催やOJT, 外部研修などにも参加する機会をつくっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市の連絡会や県の協議会に加入し、他事業所との交流やネットワークづくりを行っています。また連絡会役員や協議会会長としてグループホーム全体の質の確保に努めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居直後はセンター方式を活用し情報の収集をおこなっています。また本人との対話の機会を多く持つことで信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安や要望を汲み取れるよう、積極的に声をかけ、コミュニケーションを図っています。また毎月のホーム便りや個別の便りなども活用し、入居者の方の様子が分かるよう工夫しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が望む生活を実現するために必要な情報を提供し、共に検討を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者の方本人参加のカンファレンスを開催し、本人が主体的に生活できるよう、工夫しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのかかわりが途切れる事のないよう、対応しています。関係性も家族ごとに違うので、個別的な対応を心掛けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居以前に通っていた自治会の集まりなどには入居後も変わらず参加しています。また携帯電話をお持ちの方には適切に使用できるよう、対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット合同のイベントを開催したり、気の合う人との外出を企画したりと、工夫し対応を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後の相談などにも柔軟に対応しています。また退居後もSNSなどでの交流を継続し、遊びに来て下さる家族もいました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別の希望を叶えるホーム独自のミニケアプランを活用しています。毎月担当職員とご本人がしたいことを企画し確実に実行できるよう工夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人からの会話で得た情報はホーム独自の「気づきシート」へ記入し、その人らしいケアに活かすよう、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人の希望を尊重しつつ、自分らしく身体を動かせるよう努めています。またその日の情報はホーム独自の用紙に記入し出勤したスタッフが情報を共有できるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月に一度、スタッフ全員参加にてカンファレンスを開催し、ケアプラン作成につなげています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護記録はもちろんのこと、特に情報の共有を有する事についてはホーム独自の業務日誌に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状態に変化があった場合には情報提供書などを活用し、状態にあったケアが柔軟に実践できるよう、工夫しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会や商店なども地域資源と考え、認知症に関する啓発活動を積極的に行ってきました。現在は地域の一員としてさまざまな資源を活用しながら入居者の方は生活されています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医とは情報を共有しながら長きに渡り、連携しています。また家族への医療的な説明についてもホーム管理者、往診医、看護師などで集まり、丁寧な説明を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	必要な情報提供は交換連絡ノートを活用し行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム近隣の病院とは顔の見える関係性が築けています。ホームの考えとしては早期退院を基本とし、病院へも意向を伝えています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に急変時の対応について確認を行っています。対応方法はマニュアル化され必要な物品なども決められた方法で保管されています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一度、消防署職員も参加し、避難訓練を行っています。緊急時に屋外へ避難した入居者の方の見守りなどは地域の方をお願いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気になった職員の対応などは、その場で声をかけ、対応しています。お互いに声を掛け合える関係づくりに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中で本人が自身の希望を話せる機会をもてるよう心がけています。またホームの都合を優先せず、本人の希望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床や入浴の時間、食事のタイミングなど、本人の希望を尊重したケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日頃より、本人らしくオシャレを楽しめるよう工夫しています。コロナ禍は外出ができなかった為、ホーム内にてオシャレをして撮影会を行い、ファッション誌を作成しました。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事では食器洗いや片付けなどを入居者の方が行っています。また入居者さんが郷土料理や思い出のメニューを調理するなど「食」を楽しめるよう工夫しています。コロナ禍はホーム内でステーキを焼いたり、焼肉をしたりと楽しんでもらいました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人が美味しくいただけることを大切にしながら工夫し対応を行っています。決められた献立にこだわらず、嗜好品などを活用しながら工夫し対応しています。また朝食はご飯かパンか本人が選択することができます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人の状態や希望などを確認しながら対応を行っています。訪問歯科の先生から指導や助言を受け、対応しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	安易にオムツを使用することなく、本人の力を活用しケアを行っています。綿パンツの方も多く、ご本人の自尊心にも配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	安易に薬に頼らず、食事や散歩、体操などの運動を活用し対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、本人の希望に沿った入浴を心掛けています。自身でお湯を張り、毎日入浴している方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	遅くまでリビングや居室でテレビや読書を楽しまれる方もいますが、夜間ゆっくり睡眠がとれるよう、日中はしっかり活動を行い、心地よい疲労が得られるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬に関しては一覧ファイルを作成し、いつでも確認することができるようになっています。新しい薬が処方されたときには情報提供書を作成し全スタッフが確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アイスクリーム屋をホーム内にて行ったり、コロナ禍以前はこども食堂にてボランティアを行っている方もいました。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍、少しずつ感染状況をみながら外出の機会をつくっています。ご自身の買い物へ出かけたり、自治会の集まり、自宅への一時帰宅なども支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身で金銭管理されている方も多く、買い物に出かけた際は自身で支払いを行っています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を利用されている方も数名おられ、充電などの支援を行っています。また手紙を出す習慣のある方には散歩の時間を活用して自ら投函しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の方の作品やイベントの写真などを貼付しています。また入居者の方と作った日めくりカレンダーなども活用しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室やリビングのほか、ローカの一部スペースやエレベーターホールなどにもイスやベンチを設置し入居者の方が快適に過ごせるよう工夫しています。リビングに置かれたソファは休息や他入居者との交流の場となっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には思い出の写真を貼付したり、なじみの物を配置し、ご本人にとっての心地よい空間作りに努めています。また季節ごとの衣替えや整頓などもご本人と一緒にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の方の持っている力を活かしながら生活できるよう工夫しています。		

2022年度

事業所名 グループホーム水車の里  
 作成日： 5年 2月 24日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	近隣の小学校など、地域の子供たちとの交流がなく、互いに地域の資源としての活用がなされていない。	人生の先輩である入居者との交流を通して、また24時間運営されている事業所としての強みをいかし、グループホームが地域の子供たちにとっての居場所となることを目標とする。	10月にハロウィンイベントを開催。イベントのチラシ等を近隣の保育園や幼稚園、子供会に配布（事前に各団体に趣旨の説明等の実施）ハロウィン当日はホームに訪問した子供たちに入居者が準備したお菓子を配布する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月